

【佐野隆一先生抄録】

「補綴再製をなくすためのアナログとデジタルの視点

これからの歯科技工士に求められる技術とコミュニケーションとは」

補綴再製をいかになくすか？ というのをテーマに活動をしてきました。2018年に出版された拙著（『補綴再製をなくすための臨床テクニク 24』）は第3刷となり、2023年9月には第2弾となる書籍（『質の高い補綴のための核心 24』）を上梓することとなりました。「日常臨床のトラブルをなくしたい」「良質な歯科医療を提供したい」というのは多くの歯科医師、歯科技工士の方々が思っていることなのだとあらためて感じています。

近年デジタルデンティストリーも普及してきました。ただ、より良い補綴装置を提供するためには、チェアサイドとラボサイドの連携はあった方がいい、というのはこれまでと同じです。チェアサイドでもデジタル機器を導入することで補綴装置は作れるようになってきましたが、ラボサイドが携わると何が違うのか、ラボサイドと連携をとるには何がポイントになるのかをお互いに理解していると、補綴のクオリティはこれまで以上によくなるでしょう。

そして、時代の変化に合わせ、歯科技工士に求められる技術とコミュニケーションも変わってきました。しかし、それはこれまでのアナログが要らないわけではなく、最先端のデジタルを駆使しなければならないというわけでもありません。必要なのは、これまでに先人達が培ってきたものを、時代に合わせてアップデートしていくことです。

これから先の歯科技工にどのような価値があるのか、どう対応していけばいいのか？ 私自身の技術やコミュニケーションの考え方、具体的な取り組みなどを一つの事例としてお伝えしていくことで、歯科技工士という“人”が関わる意義を一緒に考えていければ幸いです。